

## 第1回こども・若者参画及び意見反映専門委員 委員資料

Children's Views & Voices

中村 みどり

### OCVW とは

☆CVV とは、2001 年に発足した、社会的養護の当事者エンパワメントチームです。 子ども・若者と地域で生活している人たちをつなぐ居場所づくりを行っています。

#### ・事業内容

みんなの会（児童養護施設や里親などで生活している若者を対象にしたプログラム）

よりみち堂（月1回 平日の夕食会）

講演・出版・ブログ発信など（社会的啓発事業）

ニュースレター「みんなの手紙」発行

CVV 学習会（学習および研究事業）

興味・関心のある方は・・・

CVV のホームページ

<https://cvvhomepage.wixsite.com/cvvosaka>

CVV へのメール [yes\\_cvv@yahoo.co.jp](mailto:yes_cvv@yahoo.co.jp)

### ○社会的養護下のこどもたちの声から

子どもの権利擁護に関するワーキングチーム第5回 資料4-1 一部抜粋

「みんなの声を聴かせてワークショップ」を通じての声

実施期間：2020年9月19日～12月6日

協力者：九州の児童養護施設・障がい児入所施設・里親家庭で生活する 小学1年生～高校3年生

合計 76 名

#### 1. インケアの子どもの声

自分のことを相談できる人はいない。相談できる人はいるけど、話しにくい。職員は時間がない。自分の仕事でいっぱい。空いている時間がない。「〇分で（話してね）」と言われると、言えない。意見を言えない。誰にも話したくない：適当な言葉で逃れられて、（現状が）変わることがないから。大人に話しても変わらない。言っても意味ない。→

#### 2. 今後の課題と検討が必要な視点

個別のアドボカシーを通じて聴くことができた子どもの声や状況から、権利に根差して支援の質を 変容・向上させる取組の検討が必要。

「大人に話しても変わらない。言っても意味ない。」「言ってもどうせ変わらないから。変わるとしても、すぐに解決するわけではない。」

○個別救済（訪問アドボカシー等）の限界 個別救済の方法を考えるだけでなく、システムアドボカシーも両輪で考える必要がある。

○システムアドボカシー 都道府県政令市レベルのシステムアドボカシー（子どもの生活の質の改善）  
国レベルでのシステムアドボカシー（子どもコミッショナー等） 当事者参画についても検討が必要